

(様式3)

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念を掲げており、その理念を職員個人が理解し今までと同じ生活ができるよう、外出や外食・買い物などの日常生活を取り入れた支援を行っている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念に基づき管理者が職員に指導し、職員個人が理解し介護を行っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族会や運営推進委員会などで理念を説明し、内容を理解していただけるよう努めている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ホーム前の掲示板やチラシなどを使って地域の方が参加できる行事などは参加の呼びかけを行っている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>夏まつりやふれあい喫茶など行事をホーム前の掲示板に貼るなどしている。高校の体育祭や小学校の音楽界への参加・とらいやるウィークの受け入れを行っている。</p>	<p>行事を通じて地域の自治会などにも参加し、地域住民との交流に努めていく必要がある。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室等開催し地域高齢者やその家族に対し、よりよい介護方法や知識を深める場を提供している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価実施後、結果をフローア会議等で確認し改善策を話し合い取り組んでいる。		1Fの自動ドアの開錠（センサーを取り付けることによって人の出入りがわかるようになった）
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、地域のキーマンとなる人に取組み状況や情報交換等を行いサービス向上に活かしている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの説明会や集団指導に参加させていただきサービス向上に努めている。		運営推進会議の報告や生活保護者の方の対応相談等をその都度させていただいている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けていない。		介護支援相談員や管理者は研修を受けることにより理解しているが、それを職員研修をもつことにより理解を促すことが必要である。地域福祉権利擁護事業は生活保護者等で日常的な金銭管理サービスを利用している方もいる。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設けていない。		介護支援専門員や管理者は研修等を受けることにより理解している。認知症高齢者（利用者）が中核症状や心理行動障害を行なった時に虐待が行われないように職員に対し認知症についての勉強会をたびたび行う必要がある。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>入居契約時に説明を行い、納得していただいた上で契約書を交わしている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>お知らせする事があれば個々に電話でお伝えしたり、不定期ではあるが「すみれ便り」にて家族や利用者に生活ぶりや情報など伝えている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>一年に1～2回家族会を開催し、運営に関する意見をもらえる場を設けている。又、その結果は必ず運営推進会議で発表しその時にも意見を聞ける場を設けている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動時には職員の意思を考え、十分に話し合った上で決定している。又、離職時には利用者のパニックを考え、それとなく伝える様にしている。		各フロアの職員が他のフロアへ訪問した際、そのフロアの利用者さんと少しでも面識ができるよう挨拶だけではなく、会話を交わすようにしている。フロア同士も見通しがよく、お互いに行き来している為馴染みやすい。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主任リーダー会議等で育成マニュアルを考え勤務日数や勤務体制を整え、他グループホームとの交流を経て研修が出来るよう現在検討している。		管理者からホーム理念や運営方針の説明を行い、グループホームを理解した上で各職場に配置し個々の利用者に対し、なぜこの支援が必要かを理解し納得できる指導を目指している。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学受け入れを通じて情報交換を行う事により、新たな気づきを得てサービス向上に努めている。		同系列のグループホームの職員間の情報交換にて、良い意見を取り入れサービス向上につなげている。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士のコミュニケーションをモットーに気軽に相談やアドバイスし合える風通しのよい職場環境づくりに徹している。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各フロアチームミーティング・主任リーダー会議を通し、人事・業務等のトラブルを防げる様努めている。		職員それぞれの技術や知識を情報交換しながら、互いのスキルアップにつなげている。又、その努力や実績は必ず評価に反映させている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者との面談を通し当ホームでの快適な生活ができるよう、ニーズを聞き取り現場職員に発信し、皆で取り組むようにしている。</p>	<p>入居時に本人の希望や意向、今迄の生活歴などをゆっくり聞き取れる時間を設けている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族との面談時、出来る限り希望を取り入れケアプランの作成時に活用し、現場で実践している。</p>	<p>家族ともども受け入れるよう心がけている。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>面談時等において早急なる対応策を考え現場で実践できるよう努めている。</p>	<p>今、何が必要か、どの様な支援をさせてもらえば良いのかをケアカンファレンスにて職員で検討している。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>日々の日常生活の中で徐々にサービス内容を取り入れて行き、自然に定着できるよう努めている。</p>	<p>入居申し込みがあれば管理者や介護支援専門員が自宅訪問させていただき面接にてご本人の要望や家族の意向など聞き取り、又、当ホームへの見学にて雰囲気や様子を感じていただいている。</p>
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員の日常業務の中で個々の利用者の身体レベルに合わせて共同作業を行い、コミュニケーションを通じ利用者・職員間での意思伝達を実践している。</p>	<p>同じ景色を見たり、花を摘んだり一緒に歌をうたったりして、同じ空間で同じ時間に同じ体験をして感動を共感できるようにしている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族の面会時に利用者の状態や変化などを報告し合い良い関係を保っている。		家族の面会時には職員は必ず利用者の現状を報告し、できるだけ和やかな時間を過ごしていただけるよう配慮している。
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時には利用者本人の居室にて過ごしてもらい、良い関係を保っている。		年間行事には利用者と家族と一緒に楽しい時間を過ごしていただく様工夫をこらしている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人の面会があれば快く受け入れをしている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しないように職員が席を決め、問題があればその都度職員が席替えを行っている。		利用者が数人で同じ作業が出来て、それ以上お互いを助け合えるような工夫をしている。(洗濯干しや片付け・配膳や配茶など)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了すると関係も終了している。		今後も「すみれ便り」などを交付し、年間行事やふれあい喫茶等にも参加していただき良い関係をつなげて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人一人の希望や要求は職員が把握しており、要求も施設内であれば出来る限りしていただいている。</p>	<p>入居される前の生活に沿った暮らし方が提供できるよう、本人や家族から要望や意向を伺いご本人の立場に立って、何をどうすれば良いのか検討している。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居までに生活歴や病歴・資料に目を通し、入居の時に家族と一緒に聴き取りを行っている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>朝・夕の職員申し送りにおいて利用者の心身状態を職員が把握している。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の意見を聞きフロアー職員の意見も出して介護計画を作成している。</p>	<p>家族の意見や要望を汲み、利用者の現状を把握した上で職員とケアカンファレンスを行い、今必要な事・目標を達成できる事を作成している。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>現場での情報交換等でその都度対応はしているが、計画作成には時間を要す。</p>	<p>現状を把握したうえで本人や家族の要望・意見を取り入れてケアカンファレンスを行い見直している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	生活記録として毎日カルテ記録を行い、チームミーティング時やカンファレンス時等で活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	家族では困難な外出や通院等、必要に応じて実施している。		同系列の病院や訪問看護ステーションより居宅療養管理指導にて、訪問診療や訪問看護を受けている。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	行事毎にはボランティア団体を招きレク活動を行い、年二回消防所等連絡をとり防災訓練を行っている。		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	利用者の必要に応じ同系列施設のケアマネジャーや地域のケアマネジャー・相談員との情報交換は行っている。		利用者の生活の向上に向けて他病院のデイサービスを利用している利用者もいる。その様なサービスを利用できるための支援も行っている。
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	定期的に地域運営推進会議等を開き、地域包括支援センター職員も参加する事でホーム間での情報交換を行っている。		今後、権利擁護や虐待等についての勉強会や研修の場を設けたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面会時等で詳細を説明し、同意を得た上で支援している。		入居前のかかりつけ医を希望される方には、ひきつづき受診できるような支援と協力を行っている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個々の利用者の身体状況により、精神科受診等で支援している。		外部の専門医を受診し投薬を受け、又その服薬での対応相談も行い利用者にとって最善策を支援している。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護体制が確立しており、定期的あるいは緊急時等において連携を図っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医を確保しており入院・退院時の対応に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設長を通じ現場間や家族間で納得の行く限り話し合い、必要に応じて主治医との面談も実施している。		重度化した場合の指針を打ち出し、家族の方々と職員に説明は行っているものの病状等が悪化した場合、提携病院に入院されるケースが多く、当ホームにて終末を迎えられた利用者がいない為、今後の課題である。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医・施設長・ケアマネジャー・現場職員でミーティングを行い方針を決めている。		利用者が安心して日常生活（終末期）を送れる様、主治医や訪問看護ステーションと検討を行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	関係者間において情報交換を行い、なるべくダメージを与えないよう配慮している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	人生の先輩として失礼のないように言葉かけ対応を行っている。記録の際、プライバシーを損ねる記入はしていない。		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	各利用者の希望を会話をもとに見つけだしたり、疑問に思われている事柄は利用者に応じわかりやすく説明を行い納得頂いている。		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	各利用者の個性や生活習慣を尊重し、出来る限り希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	訪問美容が二ヶ月に一度ホーム内にて行われている為、大半の利用者が利用している。要望があれば対応する。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	あらかじめメニューは決まっているが特別メニューを取り入れたり、季節に応じた食事を提供している。食事の準備・片付け等共に行い携って頂いている。		季節感のある食材や色どりを考えた盛り付け、又食器の工夫等で目でも楽しんで食欲をそそるような食事支援を行っている。
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医師から止められている事項や健康を損なわない範囲内で嗜好の支援を行い喜んで頂いている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各利用者の排泄パターンをつかみタイミングを図りながら促したりし支援している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決まっているがそれに促われず利用者の体調や希望等考慮し入浴を楽しんで頂いている。		希望される入浴時間や夜間帯の入浴は現在の職員体制では不可能な為、今後の課題としたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠や休息の支援として居室内の環境を整え、快適にすごされるよう努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の生活歴を活かした仕事内容を導き出し携って頂いている。個別に楽しみごと、気晴らし方法を把握し対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力のもと定期的にお小遣い程度の現金を預かり、金庫にて保管し利用者がいつでも使えるよう個々に分けている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブ・外食など意向を確認した上で定期的に行っている。		日常の食料品や生活用品も買物は、利用者とともにスーパーへ出かけている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間を通じて数回ではあるが遠足を取り入れ家族参加型として行っている。		お誕生日などご本人の希望される所へ出かけた り、外食等の支援を行っている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に一回家族に手紙として個々の利用者の生活状況を一筆箋として実施している。		家族から電話がかかってくれば受話器を持って会話できる方はおられるが、自ら電話をかけたいと希望される方はおられない。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	不定期ではあるが突然の訪問時でもあわてる事なく対応している。又、訪問も自由である。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の行動抑制は行わないように、見守りの強化等で心がけている。		身体拘束は生命の身体の危険性のない限り行いません。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入口のドア部に外出センサーを設置する事で、終日自由にドアが開閉出来るようにしている。		単独にて洗濯干しや水やり、庭や玄関に出られる利用者がおられ、自由に出入りしていただけるよう扉は開錠してる。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自室に過ごす際、適時訪室し所在を確認している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物（洗剤や薬品）は利用者の目の届かない所に保管するか、手の届かない場所に保管している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「ひやりはっと」報告書記入後には、現場間で話し合い今後の対応を決めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成し職員間で学んでいる。		新しい職員への訓練も兼ねて定期的に行いたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を行っており、とっさの出来事に対応できるよう努めている。		近隣の方の参加を呼びかけているが、なかなか協力は得られない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の面会時等で今後起こりうるリスクの説明を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・夕の職員の申し送りやひやりはっとなどで利用者の変化を職員一人一人が把握し対応している。		居宅療養管理指導にて、訪問診療や訪問看護を月に二回ずつ受けている。又、その指示にて体調管理を行っている。
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が理解し対応している。		居宅療養管理指導の薬剤指導にて、薬の内容や服薬の説明の指示にて支援している。
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	主治医処方による下剤の活用や白湯等の水分補給・活動として散歩等で努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員一人一人が毎食後、利用者の口腔ケアをして対応している。		居宅療養管理指導にて、訪問歯科や訪問歯科衛生指導を受けその指示にて個々の口腔ケアの支援を行っている。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	声掛けや一部介助などで水分摂取を行い、一日の水分摂取量の目安になるようチェック表を活用している。		居宅療養管理指導においての栄養指導にて一人一人のチェックを行っていただき、指導にのっとった支援を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、いつでも取り組めるよう努めている。		予防や対応に関する研修や勉強会を行い、職員自身が媒介とならないよう認識を深める必要がある。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の消費期限の把握や調理用器具等は熱風消毒・ハイター液にて除菌作業など努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口にはプランターなどを設置し、緑を置く事で和やかなイメージを出している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	無駄な物はなるべく置かず、個々の利用者の馴染みのある物品を置くようにしている。		季節の草花を植えたり、その草花をテーブルに飾ったりして和やかな空間を作り出している。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内には談話用のテーブルやゆっくりとくつろげるソファを置いており、いつでも利用できるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には馴染みの物品を持参して頂き、TVやタンス等置いている。		入居前迄使っておられた物品（お茶碗やお箸・衣類・布団・飾り物等）を持ち込んでいただき、使いなれた日常用品で安心して居心地よく暮らしていただける支援を行っている。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間ホーム内の換気を行っており、随時居室内の温度管理を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	フロア廊下には手摺りを設置し、バリアフリーになっている。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の利用者には役割分担をして頂き、おしぼり作り・調理等で自立を促している。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	自由に行き来が可能になるよう、なるべく鍵は使わずにしている。		利用者が単独で洗濯物干しや花の水やりを外に出られたりするため、安全には配慮している。

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

各利用者の残存機能を活かし、出来る範囲で仕事の役割を持って頂いている。
地域の方との交流が徐々に深まってきている。